

特色検査 「3年目」の全体像

自己表現検査「ペーパーテスト型」実施校 横浜翠嵐・希望ヶ丘・横浜緑ヶ丘・柏陽・湘南・平塚江南・厚木・小田原
西湘（理数コース）・横浜市立南・横浜サイエンスフロンティア

3年目をむかえ、学校ごとの目標や個性が明確になっています

■特色検査に関する4つの素朴なギモン

Q1 学力検査とどうちがいますか？

A1 「一つ上」の力を試す検査です

学力検査と大きく異なる設問と、似た設問があります。特色検査をその内容で分類します。

- 1 論理型 純粹に思考力を問う設問・ある種の「パズル」の場合もある
学力検査ではあまり見ないタイプ。知識をほとんど要求せず、論理的思考のみで解決する。公立中高一貫校の「適性検査」をかなり複雑にしたものともいえます。
- 2 知識+論理型 学習した知識+思考力をを用いる設問
中学までに得た知識を分野に関係なく自在に使いこなすことが求められます。高校入試、大学入試の小論文・総合問題などに似たものがあります。特色検査ならではのものです。
- 3 学力検査型 主に学習した教科の知識を用いる設問
学力検査の問題とよく似たものです。単独の教科の設問とほぼ同じ場合と、複数教科の内容を組み合わせ「教科横断型」の場合があります。

Q2 どのような力が求められますか？

A2 すべてにわたる速さと正確さが必要です 《全方位的能力》

- 1 柔軟な理解力
教科・分野が特定できないので、まず「何が問われているのか」を正確に理解することが最初に必要です。高度な言語能力が必要です。
- 2 幅の広い思考力
問題解決のために、これまでに学習したすべての事柄から、使える知識や方法を探し出し、問題にあてはめます。単なる教科横断ではなく、総合的な思考・知識を活かします。
- 3 速く正確な処理・表現力
多くの高校で時間不足が起こります。じっくり考えればできるものをあせって……。 「速く・正確に」計算や判断、表現などできることが高得点に結びつきます。

Q3 高校選びに影響が大きいと思いますが、あえて挑む価値がありますか？

A3 大いにあります。難関が目標なら、まずは挑戦すべきです

これまでに述べたような能力は、学力検査の共通問題だけを目標に学習しても、なかなか身につけられないものです。高校卒業後の進学や社会に出てからの知的能力による活躍を考えるならば、特色検査実施校に挑戦することは大いに意味のある選択です（数年後、大学入試に特色検査に似たスタイルに変化することも決まっています）。また、それぞれの高校の問題から、その学校が求める学力や生徒像が読みとれます。学校選びにあたって、進路状況、難易度や部活動など以上に、特色検査が示すその学校の特色を理解することが大切かもしれません。

Q4 どんな学習をすればよいのでしょうか？

A4 まずは模試に挑戦し、特色検査を体感しましょう

学校ごとの課題や目標は、この後の分析で説明します。ともあれ、何が出るかわからない問題に対し、慣れること

が大切です。特色検査初年度からこれまでの間、特化した模試で受検者を鍛えてきました。今年度も、さらに強化します。スタートは春の「3月神奈川県特色検査模試」(新中2・新中3対象)。ここで特色検査がどんなものか、体感してください。課題や目標がより明確になることでしょう。

■学校ごとに見る特色検査の「特色」——学校の求める「生徒像」のヒント

Q5 学校ごとにレベルや内容が異なりますか？

A5 大きく異なります：次の三つのタイプに分類できます

- 1 思考力重視型 思考力を強く要求……「論理型」と「知識+論理型」の設問が多い
 - 横浜翠嵐 推理を重視した県下最高レベルの難問。いわゆる5教科の問題を解くための知識とは異なる性質の思考力を求める。読み・考え・書くというすべての面で高レベル。
 - 希望ヶ丘 言語的論理パズル、図形パズル、社会科的素材の情報処理が柱。前2者が特に重要。
 - 横浜緑ヶ丘 作文と企画シート作成。教科の知識とは無関係の創意工夫・表現力重視の問題。
 - 横浜サイエンスフロンティア 現代社会の課題を用いた、やや小論文に近い問題が中心。
 - 西湘(理数) 事実上、全設問が論理パズル。説明記述問題などは無い。

- 2 バランス型 学力検査を土台に、独特の思考要素を加える……「知識+論理型」の設問が多い
 - 湘南 数学重視・論理重視で、パズル的な問題も多い。中学までに身につけた数学的能力・言語能力を試される。技能教科(今年は美術)の内容が出題されることがある。
 - 平塚江南 5教科のバランスをとった学力検査型が多い。社会科的な論述という、他の学校にない思考力を深く問う問題がある。設問数最多。
 - 横浜市立南 前半「英語+数学」の教科横断、中ほどに立体パズル。後半は社会の方位および英語による時差の問題。英訳された設問には難易度最高レベルのものも。

- 3 学力検査型 学力検査の延長という性格が強い……「知識型」の設問が多い
 - 柏陽 数学・理科・社会・国語・英語の順に各教科の発展的問題が並ぶ。高レベルで設問数が多く、負担は大きい。が、なすべきことは明快。
 - 厚木 英語・数学の学力検査の問題を順に組み合わせたような構成。規模も小さく、比較的平易で、安心して解くことができる。
 - 小田原 国語・英語・数学と理科・社会・数学に各教科の応用問題が配列されている。設問数が多く、細かい部分でひねった応用問題が多いので時間的に厳しい。

Q6 来年は、また傾向が変わるのでしょうか？

A6 可能性はあります。高校も試行錯誤しながら進んでいます。

多くの学校が、今年で3年目です。傾向が大きく変化した学校もあります。希望ヶ丘(図形問題の増加)、柏陽(ほぼ学力検査型に)、西湘(全設問が事実上パズルに)です。詳細は各学校の分析に記しました。

かつての独自問題のように、その教科の決まったパターンの中で難問を出すということではなく、中学までの学習体験について、学校ごとに自由に出題するのが特色検査です。まだまだ試行錯誤中の要素はありますし、一定化させないのが方針という考え方もできますから、来年度も変化する可能性はあります。

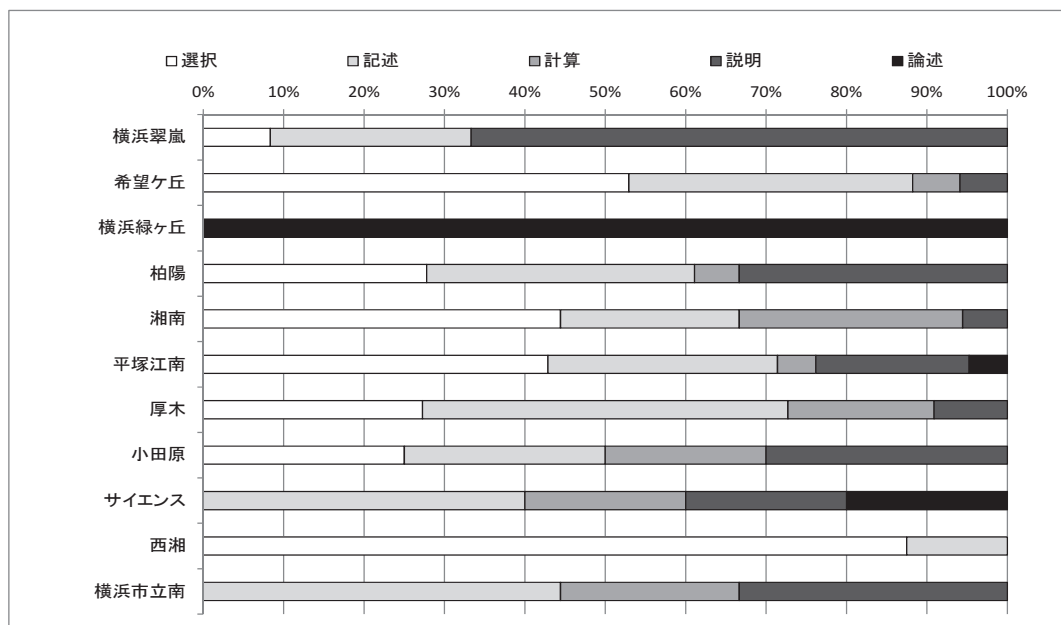
作成も採点や判定も困難な特色検査をわざわざ実施してでも、個性を打ち出そうという、各学校の姿勢は高く評価できます。入試問題は本来、その学校からのメッセージです。傾向の変化も含め、問題を通じた学校との深いコミュニケーションを楽もう、というくらいの姿勢でのぞむべきです。

特色検査 学校ごとの特徴比較

形式・教科・問題の性格、の3つの観点からそれぞれの個性を比較する

■設問形式による比較

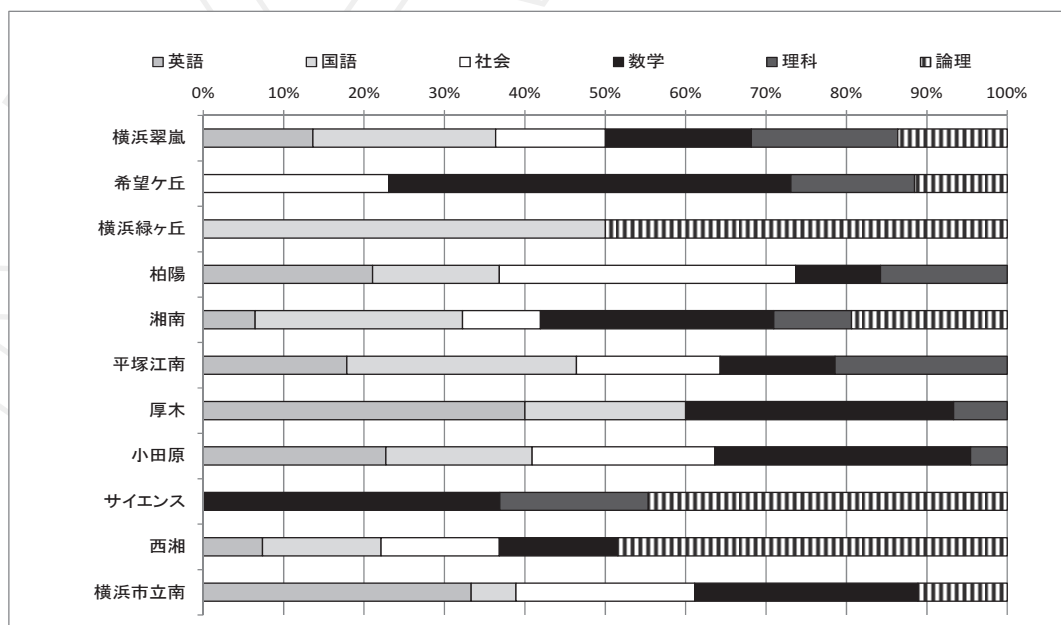
選択・記述（計算）・説明（作図・英作文）・論述に分類し、その比率を比較する



左側の薄いほうがシンプルで、右の濃い側ほど書く手間がかかると思ってください。横浜翠嵐の説明重視がよくわかります。また、論述（意見を書く）のある学校は横浜緑ヶ丘（事実上すべて論述）、平塚江南、横浜サイエンスフロンティアの3校です。

■教科のバランスによる比較

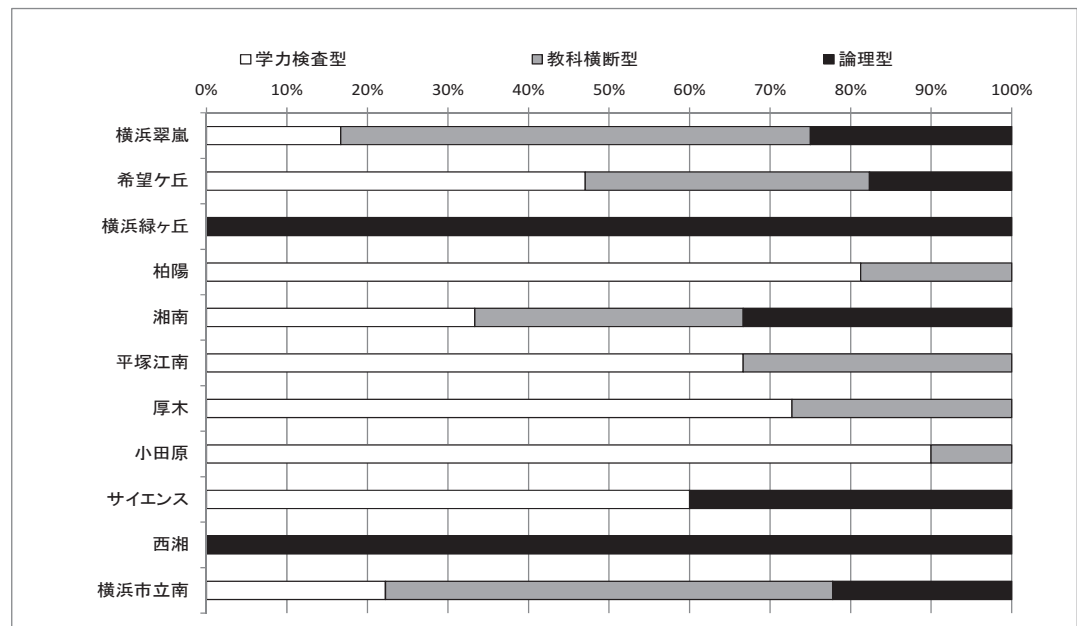
5教科および論理*に分類し、その比率で比較する *特定の教科内容とは別の論理を用いるもの



文系は薄い色、理系は濃い色です。どちらを重視するかのバランスおよび、特定の教科ではない「論理」問題を多く用いる学校がどこかわかります（横浜緑ヶ丘はある種の「小論文型」なので特別です）。希望ヶ丘・湘南・西湘・サイエンスフロンティアの数理的論理重視、平塚江南の5教科バランス型、横浜翠嵐の全バランス型が印象的です。

■設問の性質による比較

学力検査型（単一教科）・教科横断型・論理型（教科以外）に分類し、その比率で比較する



作文とプレゼンテーションのみの横浜緑ヶ丘と、大半がパズルといえる西湘は特別です。多くの学校は半分程度が単一教科の問題です。なお、これは設問の数で集計しています。そのため、平塚江南では、大規模でおそらく配点も大きい教科横断型問題が実際より小さめに見えます。横浜国立南の教科横断色の強さがわかります。また、学力検査型中心の学校でも、厚木は標準レベル、柏陽はストレートな教科の難問、小田原はひとひねりを加えた難問がある点などが異なります。